

【米金融危機】米下院公聴会、AIGなど2社経営陣を非難

産経新聞HPより 2008.10.8 18:44

このニュースのトピックス: [金融危機](#)



公聴会の証言で宣誓するAIGの元幹部ら=7日、ワシントン(AP)

【ワシントン=山本秀也】米下院の監視・政府改革委員会は、6、7日の2日間、証券大手リーマン・ブラザーズと、保険大手アメリカン・インターナショナル・グループ(AIG)の経営者を公聴会に呼び、経営難に陥った原因などについて証言を求めた。破綻(はたん)に追い込まれたリーマン、公的資金で救済されたAIGと、金融危機の中で明暗を分けた両

社だが、巨額の役員報酬や経営姿勢をめぐり、議員からは「度し難い欲深さだ」(ワトソン議員)といった非難が相次いだ。

公聴会の冒頭、民主党のワックスマン委員長は、「ウォール街がもう少し責任を感じ政府がもっと関与していたなら、金融危機は防げたはずだ」と語った。

リーマンのリチャード・ファルド最高経営責任者(CEO)に対し、ワックスマン氏は「金融システムはあなた個人には有利だったようだが、米国や納税者のためにはならなかった」と指摘。2000年以降にファルド氏が得た役員報酬が約4億8000万ドル(約480億円)だったことを挙げ、会社を破綻させて得た巨額報酬を「公平だと思うのか」と追及した。

強気の経営姿勢で知られたファルド氏だが、「保有資産の大半が無価値同然のリーマン株だ」と言い訳した。また、リーマンだけ救済が見送られたことへの所感をウェルチ議員に聞かれると、「どうして私たちだけなのか、分からない」と肩を落とした。

国民生活とかけ離れた役員報酬やぜいたくな待遇への批判は、[連邦準備制度理事会](#)(FRB)の[緊急融資](#)で救済されたAIGの新旧経営陣にも浴びせられた。

マローニー議員は、同社のマーティン・サリバン元CEOに対し、「AIGの救済は投機行為のツケを納税者に押し付けたに等しい。これ以上、納税者に負担がかかる中、役員賞与が支払われるとは思わないでほしい」と言い切った。